

地質ニュース

昭和 51 年 6 月

第 262 号

1976

解 説	昭和51年度の地質調査所の研究(II).....企画室..1
	川崎地区水位・水質観測井について.....岸和男..10 ～その4施設・設備と水位変化～
	中国地質学会海洋地質調査技術交流団 地質調査所へ.....中条純輔..19 駒井三郎
	砂浜は生きている.....磯部洋..20 ～新潟県寺泊浜の成長を探る～
	人工地震観測時の天候予測.....高橋博..26
海外事情	ロンドンの地質博物館.....太田良平..28
	カパドキア(Cappadocia)の火山地帯に行く.....河田清雄..34 ～アナトリアの旅 その2～
資 料	ソ連の斑岩銅鉱床①.....岸本文男..44
	熊石 KUMAISHI.....秦光男..56

編集 地質調査所

表紙の写真

鉄かんらん石

晶洞に突出する 光沢のある刃形の結晶(長さ約1mm)は 濃褐色の鉄かんらん石(正確には“鉄に富むかんらん石”)である。かんらん石は塩基性・超塩基性岩の重要な構成鉱物であるが それは 苦土かんらん石(forsterite Mg_2SiO_4)に近い組成のもので 鉄かんらん石に近い組成のものは酸性火成岩やペグマタイトに産する。酸性火山岩中の鉄に富むかんらん石の斑状結晶には 噴出前のマグマ中に晶出していた真の斑晶と 噴出後の固結の最終期に 空隙をうめたり 気孔壁に着生する気相晶出鉱物とがある。この写真は後者の例で 鹿児島湾北岸 隼人町浜の市西方の流紋岩溶岩中のものである。晶洞の周囲の鉱物は石英・アルカリ長石・鱗珪石などであるが 同じ岩石の他の晶洞には大隅石(osumilite)の美晶を産する。

(文 地質部 小野晃司 写真 正井義郎)

発行 株式会社 実業公報社